

お四国巡めぐり

「寝ていて転んだためしはない」子供のイロハカルタにこんな言葉があった。寝ていたのではなかつた。朝眼が覚めて起き上つて歩き出した、それ切り動けなくなつて仕舞つたか「どん」と尻餅をついた。布団の上で転んで怪我した話を聞いたことがあるが、本当にそういうことがあるんだということが判つた。

ても一向にまとまらない、十八ヶ寺巡つて、さてどの寺がどうのようであつたか、適確に思い出せない。手帳を取出して見ても俳句のようなものを十ばかり書留めているだけ。それもその道の人見えてもらつたら二つ程はまあまあ俳句でしようなあと言われる始末。しかしよい旅であつた。今まで時々そこに出かけたが、今度のような旅はじめてであつた。

第一時期がよかつた。恐らく一年中で旅には一番よい季節であつたろう。

行つた先がよかつた。気候がおだやかで、風土がおだやかだ。一行の連れがよかつた。法の縁、地の縁の人々ばかりだ。行つた先の人々がよかつた。行つた先の人々と心が通つていふことが判るのは今度の旅がはじめてであつた。行きすりの人でも我々を見られる眼の色が違つ。あれは到底一代や二代で出来上つたものではない。千年たつてもお大師様は四国の土地の人の中に生きておられるのだ。

何の山寺への道であつたろう、道辺に並ぶ小さい墓石は明治以前のものらしく小さい。の中に備中國柳木原村何某、備後國福山何某とある二基が眼についた。何んな事情でか四国巡りの途中で亡くなつた人であろう。いたましい思いと共に、異郷の人をこうして手厚く葬つて下さるこの地の人々の情が心にしみた。

阿波の国分寺は菊花紋の瓦の立派な堂塔であるが、古いだけに大分傷んでいた。崩れた塀が今流にコンクリートブロックで修繕されつゝある。何れベンキでも塗つて土塀らしく見せるのであろう。乱暴なことのよつとも思えたが、一・二丁離れてふりかえると周囲の自然との調和のすばらしさ、天地自然の調和の偉大さに打たれた。あの塀も二・三年もしたら立派に周囲と調和するに違ひない。

宿坊安楽寺にて



闇の中を遠近の灯火に浮かびあがる国道三十号線を走りつゝ
けるバスの中で、同行二人に励まされた参拝者一同の胸裡には
何が去來したことだろうか。恐らくお大師さま（空海上人）の
ありがたい功德の数々を反芻し、或いは二日間の思い出を噛み
しめていたのだろう。バスはその間に帰着した。
二日間に十八寺を巡拝して、この快適な旅は何と總べてに恵
まれることであります。思えば古人の巡拝は白の行衣
に手甲脚絆の正装に身をかため（勿論現代でも一部には正装の
巡拝者もいる）。金剛杖をたよりに海のほとりや幾山坂を越え、
全行程（約一、二〇〇糠）の總べてを徒步で四十日前後の日子
をかけて巡拝の旅を続けたと言われるのですが。そして、その
巡拝のきびしさは文字通り他界に来ている先祖や近親者の靈と

何の山寺への道であつたろう、道辺に並ぶ小さい墓石は明治以前のものらしく小さい。その中に備中國柳井原村何某、備後国福山何某とある二基が眼についた。何んな事情でか四国巡りの途中で亡くなつた人であろう。いたましい思いと共に、異郷の人をこうして手厚く葬つて下さるこの地の人々の情が心にしみた。

阿波の国分寺は菊花紋の瓦の立派な堂塔であるが、古いだけに大分傷んでいた。崩れた塀が今流にコンクリートブロックで修繕されつゝある。何んべんきでも塗つて土塀らしく見せるのである。乱暴なことのようにも思えたが、一・二丁離れてふりかえると周囲の自然との調和のすばらしさ、天地自然の調和力の偉大さに打たれた。あの塀も二・三年もしたら立派に周囲と調和するに違ひない。

第一時期がよかつた。恐らく一年中で旅には一番よい季節であつたろう。

行つた先がよかつた。気候がおだやかで、風土がおだやかだ。一行の連れがよかつた。法の縁、地の縁の人々ばかりだ。行つた先の人々がよかつた。行つた先の人々と心が通つていることが判るのは今度の旅がはじめてであった。行きずりの人でも我々を見られる眼の色が違う。あれは到底一代や二代で出来上つたものではない。千年たつてもお大師様は四国の土地の人の中に生きておられるのだ。

でも一向にまとまらない、十八ヶ寺巡つて、さてどのお寺がどうであつたか、適確に思い出せない。手帳を取出して見て併句のようなものをばかり書留めているだけ。それもその道の人見つたら二つ程はまあまあ併句でしょくなと言われる始末。しかしいよ旅であった。今まで時々そこそこ出かけたが、今度のような旅ははじめてであった。

四国霊場巡拝の記

尻海神坂満

「牛窓青龍寺訪中団」に同行して

副住職
若松 隆英

共にする善提行であり、且つ生前に他界の難行苦行を先取りして後生の安樂を祈る四国修業と言われた所以でもありますよ。ところで私は以前から巡拝を念願していました矢先に朝日古の企画を承りましたので早速参加させて頂き、ほんとうにありがとうございました。衷心より感謝いたしておる次第でござります。こうした催しをされることは種々煩雑なこともありますですが、又巡拝の機会を与えて下さるようよろしくお願ひいたします。また納経帳、納経軸の署名捺印を頂くために時代各位がお世話を下さいましたが、多人数のものを短時間のうちに書いて頂き、巡路を按じながら参拝者のバスより常に一足先行する御労苦の程、厚く御礼を申し上げる次第でござります。紙上を借りて厚く御礼を申し上げます。

えるのではないでしようか。我々の日常生活を顧みる時、現在の文明の快適さにどっぷりと浸りきっているようになります。お大師さまの中国行は今の世への継承とも私は考えました。以後西安と同様の古都洛陽・近代中国を代表する首都北京を回り、足かけ十二日間の旅を終えて伊丹へ帰つて来ました。何の準備もなく慌忙しい中で出発した旅でしたが、広大な国土・悠久と働く中国人、長い豊富な歴史・目をむく風物、何を見ても興味の尽きない物ばかりでした。また外国に接することによつて、日本の良さも感じました。中国への旅がもつと簡単になつて、いつの日か檀家の方々と一緒に中国へ行けることを楽しみにして筆を置きたいと思ひます。

十三仏巡り(3)

文殊菩薩

空海記念碑の前で

九月二十八日長男慶
寺になつてくれるよ
歌を頂だいいたしまし
初日の出

朝日に輝く朝日寺
御家若松
名は慶隆